

内閣官房及び内閣府の業務の見直しに関する 有識者議員の主な御意見（これまでに伺ったもの）

内閣官房・内閣府の位置付け

- トップに近いところに組織を作りたがるのはどこの国も同じ。スクラップアンドビルド方式や優先順位付けをしていくしかない。
- 内閣府は、最近横並び的に捉えられているが、各省より一段高い立場であるべき。
- 今後も官邸に情報が集まるようにすることは必要。

各省の政策調整機能

- 各省が総合調整機能を持てるようにすることの大きな利点は、スピード感を持って仕事をするができるということ。そのためにも権限の委譲が大切。
- 内閣府の業務が肥大化する原因は、各省の縦割り構造にもある。各省間で横の調整がうまくいけば集中を避けられるように思う。
- 民間企業でも各セクションにまたがる仕事については縦割りになるので、タスクフォースを作って対応する。
- 各省に業務を移管しても、調整機能がなければうまく機能しないので、しっかり運用することが重要。

定期的見直し

- 政治力学として一度内閣官房・内閣府に集まったものを各省に戻すのは難しいと思うので、定期的に見直しを行うことが必要。
- 業務の棚卸しは民間でも重要。放っておくとまた内閣周りに仕事が増えてしまうので、3年に1回くらいは見直すことが重要。

時限方式

- 一度重要課題として取り組むとやめる時が難しい。ある目標を達成したらやめるといふようにしなければいけない。